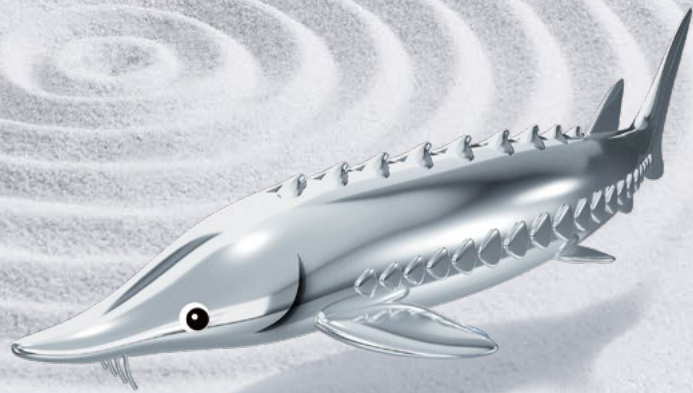




フジキンキャラクター

Fujie フジィ

フジキンの「Fuji」に「earth(地球)」、
「evolution(進化／発展)」の「e」を加え、
フジキンが地球規模で進化し
発展していくようにとの願いをこめて
【Fujie】(フジィ)と命名。



会 社 案 内

株式会社フジキン

総本社

〒530-0012 大阪府大阪市北区芝田1-4-8(北阪急ビル)
Tel.06-6372-7141(大代表) Fax.06-6375-0697

新本社

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-18-13(秋葉原ダイビル)
Tel.03-3252-0301(大代表) Fax.03-5209-8835



<https://www.fujikin.co.jp/>



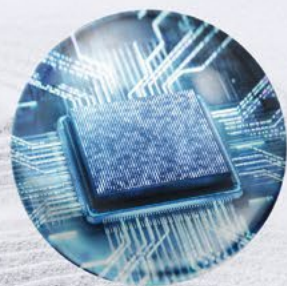
各種産業



ライフサイエンス



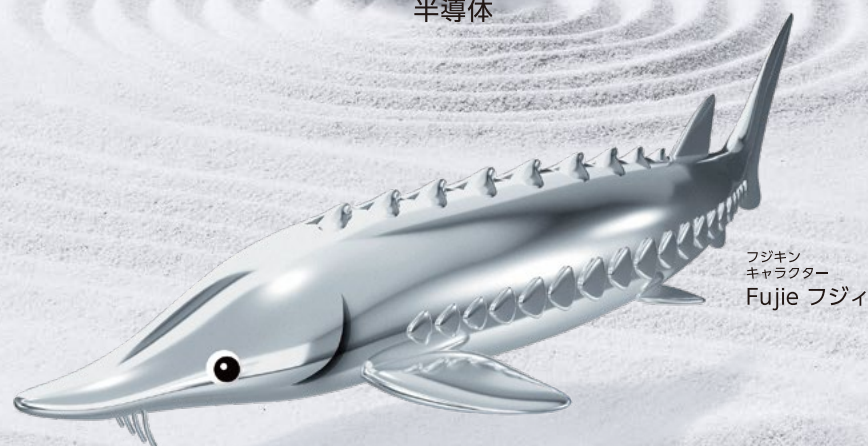
宇宙



半導体



分析・計測



フジキン
キャラクター
Fujie フジイ



製薬



水素

フジキン、極限への挑戦。
それは、まだ見ぬ未来への「ながれ」を創る。

超精密流体制御システムが
生み出す「ながれ」は、世界へ、宇宙へ。
持続可能な社会の実現に貢献する。

極限の流体制御システムで、
ナノから宇宙まで。

ながれを創る、世界へ
Creating the Flow for Sustainability



創業100周年に向けて

技術の極限に挑み、時代のながれを創る オンリーワンな存在に。

フジキンは、1930年の創業以来、常に極限に挑戦し、技術の究極を超えることを企業ポリシーとしてまいりました。私たちの創り出す超精密流体制御機器やシステムは、陸・海・空・宇宙の多彩なフィールドで社会に貢献しています。

私たちは「ながれとともに ながれをこえて」という基本理念の下、さまざまなお客様のご要望にお応えすることにより、技術の進化と品質や性能の向上に努めてまいりました。当初は流体を「流す」「止める」、単純な機能のバルブ機器類の製造・販売を生業とした会社でしたが、今では、流量制御機器などを含めた流体制御機器・システムの総合メーカーへと大きく飛躍することができました。センシング技術や情報化技術が飛躍的に進化

していく中、フジキンも超精密流体制御技術の進化に果敢に挑戦し続けています。そして、時代をリードする技術開発を、新たな領域でも推進しています。絶滅危惧種であるチョウザメの完全養殖やライフサイエンス事業にも取り組んでおり、フジキンのさらなる飛躍の原動力となっています。私たちはこれからも、流体制御機器・システムの総合技術で、常に技術の極限に挑み続け、持続可能な社会に貢献していく所存です。フジキンはさらなるグローバル化を推し進め、お客様にとって、なくてはならない「ナンバーワンからオンリーワンの存在」となり、お客様と共に、成長していくことをお約束します。

代表取締役社長 田中 久士

半導体分野

Semiconductors

微細化が進む最先端の半導体製造向けに、
超精密流体制御を実現するガスシステムを
世界最高水準のスーパークリーンルームで
開発・製造しています。

Fujikin Technology

世界最高水準のクリーン技術

フジキンのスーパークリーンルームは、1立方メートルの空気中に含まれる0.1マイクロメートル以上の微粒子が10個以下と、世界最高水準の清浄度。そして、バルブを開閉する際のわずかな接触による微粒子の発生を抑え、ガスの通路に微粒子が付着しにくいUP(ウルトラピュア)処理を施した製品を開発。さらに製造では、自動化ラインを導入し、省人化、省力化に取り組んでいます。

オイルフリー パーティクルフリー
外部リークフリー アウトガスフリー
デッドスペースフリー コロージョンフリー

セーフティ
&
クリーン
テクノロジー



コンパクト化・施工性・メンテナンス性

フジキンの集積化ガスシステム(IGS)は、半導体製造装置のガス供給系をコンパクト化。さらに基本技術の高性能化、世界標準化を推進し、流量の安定性や施工性、メンテナンス性を高めることで、トータルコストダウンを実現しています。



ガス濃度を計測する技術

半導体製造で用いられる、プロセスガスの濃度計測機器を開発しました。原料ガスの濃度を高速・高精度に測定可能です。レーザー技術を使ってリアルタイムにガス濃度を計測することができ、150℃の高温にも対応しています。



Main Lineup

主要製品ラインナップ

IoT バルブ

バルブの開閉を
センシング



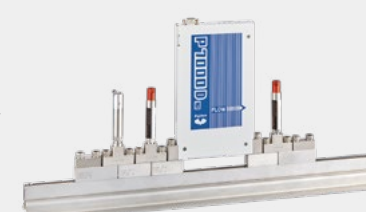
Flow Control System (流量制御機器)

0.5sec以下の高速応答も実現
流量制御・モニタリングソフト
多種通信方法に対応



超小型 集積化ガスシステム

1ラインの寸法幅10mm
超小型タイプ



濃度 モニター

オゾンガスの濃度を
モニターする機器など
を開発



水素分野

Hydrogen

ロケット用バルブ機器で培った
極低温・超高压対応の技術を生かし、
水素の輸送、貯蔵、充填などで使用する
バルブ機器やユニットシステムを
開発・製造しています。

Fujikin Technology

水素ステーションや車載用としても

フジキンの製品は水素ステーションの圧縮機、蓄圧器、ディスペンサーと、超高压が求められる領域で多く使用されています。また、燃料電池自動車 (FCEV) においても、フジキン製品が使用されており、その技術は大型車や船舶などにも広がりを見せています。



水素インフラ用も極低温に対応

持続可能な社会の実現に向けて液体水素のインフラが整備されつつある昨今の情勢に応じ、水素インフラ用バルブの開発も進めています。



製薬分野

Biopharmaceuticals

バイオ医薬品や抗体医薬品などの無菌製造ラインにご使用いただけるよう、洗浄しやすく、洗浄液などが内部に残らない、分解しやすい構造の製品を開発しています。
高いサニタリー性、メンテナンス性、耐久性で、より安全性に優れた医薬品の製造に貢献しています。

Fujikin Technology

高品質・クリーン仕様のサニタリーダイヤフラムバルブ

バイオ医薬品の需要拡大に加え、コロナ禍以降はワクチンの国内生産の重要性も高まりました。フジキンのバルブは、これらの製造プロセスで多く使用されています。



Main Lineup

主要製品ラインナップ

グローバル対応 各種バルブ

世界中の水素ステーションに対応したバルブ



液体水素用 バルブ

超高压液体水素を制御
(99.9MPa、-253℃)



ウェア ダイヤフラムバルブ

シール構造やダイヤフラム交換の
容易性が特長



シングルユース用 ピンチバルブ

多サイズのチューブ径に対応
ブレードチューブ対応



ウェアレス ダイヤフラムバルブ

流路がストレートで
ステンレス製特加工により軽量化



分析・計測分野

Analysis and Measurement

高純度ガスの製造工程において

リアルタイムのガス濃度分析を可能にしました。

またサンプルガスの分析を自動化するシステムを

開発・製造しています。

Fujikin Technology

実証実験も可能なラボ・テクノロジーセンター

分析・計測関連のユニットシステム開発拠点として、ラボ・テクノロジーセンターを万博記念 つくば先端事業所に新設。実証実験や、分析計の校正などが可能なオープンラボとなっています。また、分析サンプリングシステムをはじめとする製品の製造・検査設備も備えています。



宇宙分野

Space

1976年にロケット設備用バルブ機器を開発。

燃料となる液体水素(-253℃)や

液体酸素(-183℃)の充填など、

極低温の環境に対応できる技術で、

長く日本の宇宙開発の一翼を担ってきました。



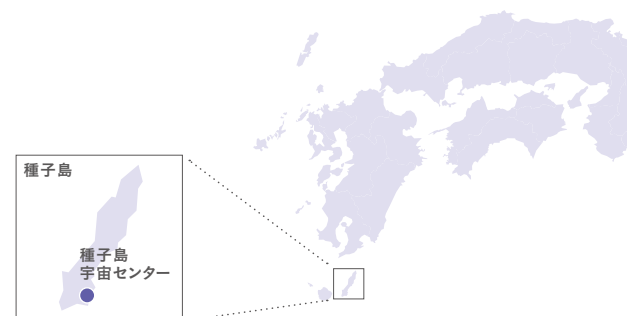
Fujikin Technology

種子島宇宙センターで活躍

種子島宇宙センター内では、バルブをはじめとしたさまざまなフジキン製品が、射点や移動発射台において使用されています。ロケットの開発から打ち上げの実現まで幅広く貢献したとして宇宙航空研究開発機構(JAXA)様から感謝状をいただくなど、その優れた技術力と信頼性は高く評価されています。

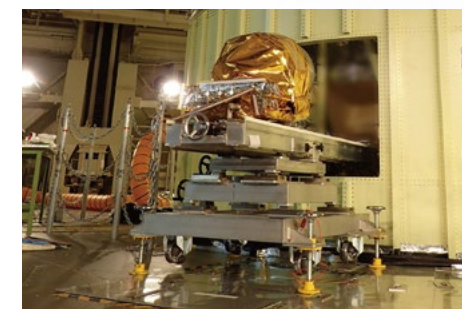


©JAXA



H3ロケットに採用

JAXAはH-IIAロケットの後継となる、高い国際競争力をもつ新型基幹ロケット「H3ロケット」の開発に着手。このロケットの第2段機体、ガスジェット装置にフジキンのバルブが採用されており、発射台などの利用とあわせ日本の宇宙事業拡大に貢献しています。



ガスジェット装置

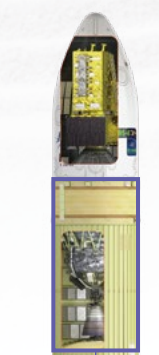
©JAXA



ボールバルブ



高圧対応ニードルバルブ



この部分にフジキンのバルブが使用されています



©JAXA

各種産業

二次電池・石油化学・
造船・電力/ガスなど

Various Industries

さまざまな分野でフジキン製品は活用されています。

例えば、リチウムイオン電池の製造プロセス用バルブ、

LNG燃料船向けバルブおよびユニットシステム、

環境対策用のファインセラミックス製バルブなども取りそろえ、

世界各国で活躍しています。

Fujikin Technology

二次電池産業に貢献

再生可能エネルギーの活用や電気自動車などに欠かせないリチウムイオン電池。その製造プロセス用バルブ機器を開発し、脱炭素社会の実現にも貢献しています。



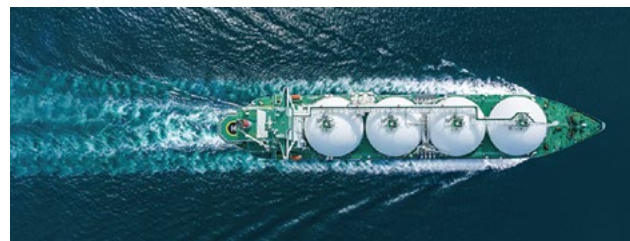
ウェアレスダイヤフラムバルブ



少量充填用バルブ

船舶向け製品の開発

船舶においては、LNG船のエンジン用高圧弁や、海水汚染対策として使用されるバラスト水処理装置用のバルブ機器や継手など、さまざまなシーンで使用される製品を開発しています。



石油・石化プラントの安全のために

精密なプロセス制御や監視の役割を担う計装用バルブ機器などを通して、石油化学プラントの安全と信頼性の向上に貢献しています。



ニューVシリーズ

電力・ガスにおける役割

火力発電所の排煙脱硫プラントで活躍する、フジキンのファインセラミックス製バルブ。ファインセラミックスは、優れた耐摩耗性・耐薬品性・耐腐食性といった特性があります。また、原子力発電所では、極めて高い技術力が求められる中、フジキンの計装用バルブ機器が数多く使用されています。



ファインセラミックス製バルブ

ライフサイエンス

Life Science

先進技術で時代のながれを創ってきたフジキンの

新たな挑戦が、ライフサイエンス事業です。

フジキンではチョウザメの養殖を通じ、

これからの日本に必要な食生活をお届けするため

日々研究を続けています。



Fujikin Technology

チョウザメの養殖を研究

チョウザメは主にカスピ海や黒海に生息している古代魚で、その卵はキャビアとして広く世界で珍重されていますが、乱獲により絶滅の危機に瀕しています。フジキンの良質な環境で完全養殖されたチョウザメを、全国の養殖業者様へ稚魚として販売しているほか、レストランなどへキャビア用の抱卵活魚や魚肉用の活メ魚として販売しています。



主な国内拠点



万博記念 つくば先端事業所

工場とR&Dセンターを構える環境配慮型の最先端の事業所



大阪工場 東大阪プラント1

最先端の製造設備を備えた工場



大阪工場 柏原

経済産業大臣 高圧ガス認定工場



東北工場

ユニットシステム専用工場

本 店

〒550-0012
大阪府大阪市西区立売堀2-3-2

総本社

〒530-0012
大阪府大阪市北区芝田1-4-8(北阪急ビル)

新本社

〒101-0021
東京都千代田区外神田1-18-13(秋葉原ダイビル)



大阪R&Dセンター

次世代製品を開発する
最先端のR&Dセンター



大阪工場 東大阪プラント2

2026年稼働予定



江刺フロンティアパークIIに新たな東北工場

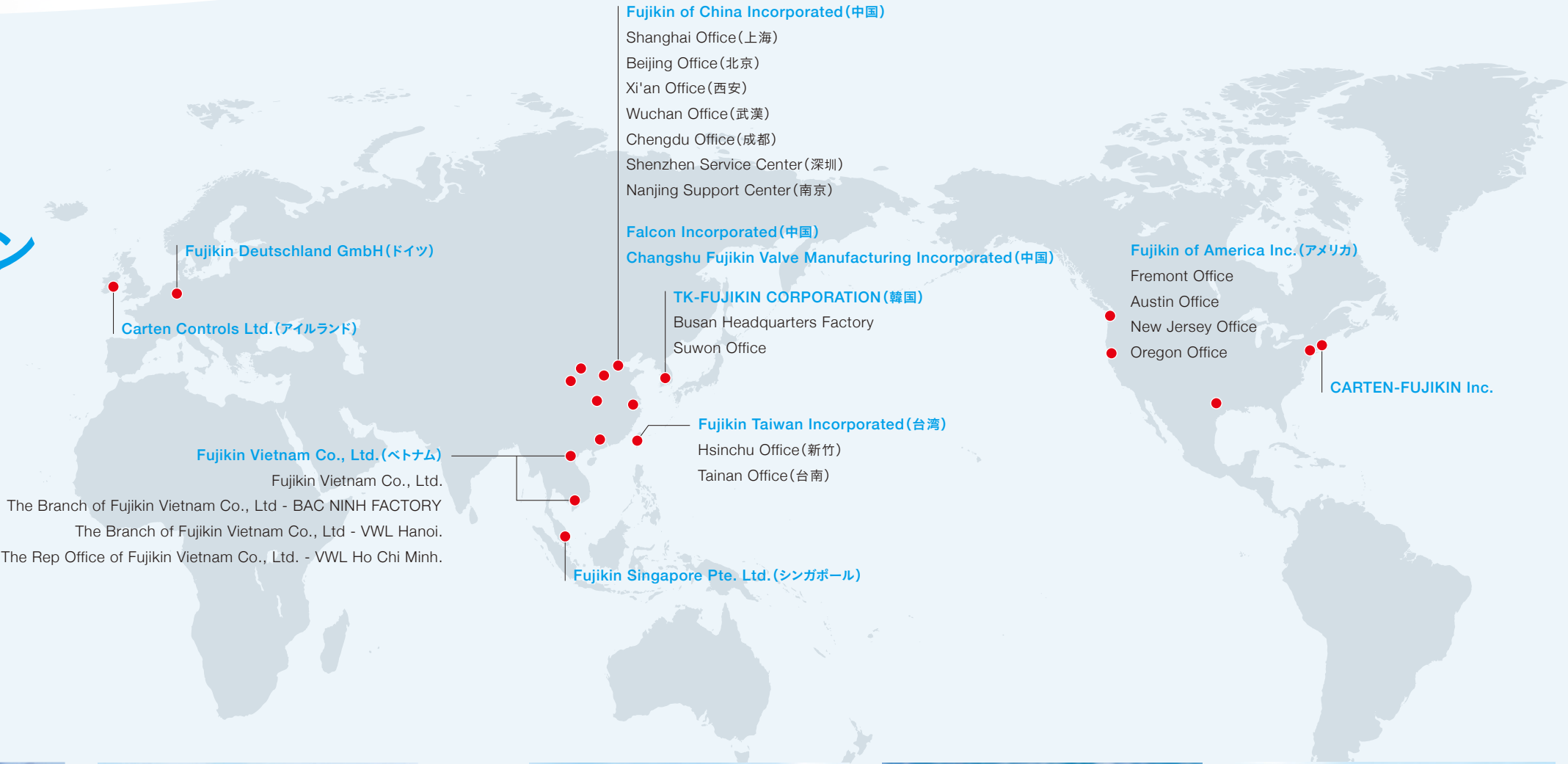
2028年稼働予定

上記2つはイメージ図です。

主な海外拠点

世界市場に対応し
常に進化を続けるフジキン

世界のお客様のニーズに応えるため、
フジキンはアメリカ、アジア、ヨーロッパへと拠点を拡大してきました。
現在も、常に世界市場の変化に対応しながら、
本格的な海外生産と販売・サポート体制の両立を図り、
グローバル化を推進しています。



Fujikin of America Inc. (アメリカ)



Fujikin of China Incorporated (中国)



Fujikin Vietnam Co., Ltd. (ベトナム)
タンロン工場



Fujikin Vietnam Co., Ltd. (ベトナム)
バクニン工場



TK-FUJIKIN CORPORATION (韓国)



Fujikin Taiwan Incorporated (台湾)



Fujikin Singapore Pte. Ltd. (シンガポール)



Fujikin Deutschland GmbH (ドイツ)



Changshu Fujikin Valve
Manufacturing Incorporated
(中国)



Falcon Incorporated (中国)



CARTEN-FUJIKIN Inc.
(アメリカ)



Carten Controls Ltd.
(アイルランド)

創業100周年の大きな節目へ向けて

1930

小島準次が大阪市港区に「小島商店」を創業。配管材料及び機械・金属製品の卸販売に従事、主に中国大陸向けの輸出並びに国内需要に専念

1935

バルブ・コックの需要旺盛に鑑み新たに工作部を設立。同時に大阪市城東区鳴野の工場を買収、操業を開始して「カープ印」の商標で発売

1947

法人組織「富士島工機株式会社（現・フジシマ管材株式会社）」を設立。バルブ・コックの事業を引き継ぐ

1953

「ニードルバルブ」を開発



1954

富士金属工作株式会社（現・株式会社フジキン）を設立し、「富士島工機株式会社」立売堀営業所及び大阪市城東区鳴野・滋賀県彦根市の両工場を買収。製造部門の積極的拡充に乗り出す



1967

受注増加に対応すべく鳴野・彦根両工場を売却し、東大阪市に自社工場「大阪工場（現・大阪工場 東大阪）」を竣工



1971

本社業務の拡充を図るため大阪市北区芝田に本社を移転。立売堀の旧本社は「関西支店（本店）」に名称変更し、営業拠点として稼働

1972

大阪府知事より「高圧ガス製造許可」を受ける

1973

通商産業大臣（現・経済産業大臣）より「高圧ガス設備試験製造認定工場」として認定を受ける

1976

大阪工場（現・大阪工場 東大阪）で宇宙開発設備用バルブ機器類を開発。生産のため、業界に先駆けてクリーンルームを設置

1981

西ドイツ（デュッセルドルフ）に事務所を新設
アメリカニュージャージー州に事務所を新設



1982

「大阪柏原事業所（現・大阪工場 柏原）」を竣工
社名を「株式会社フジキン」に変更

1984

ドイツ「Fujikin Deutschland GmbH」を設立
「Fujikin of America Inc.」を設立



1988

大阪南港に「大阪ハイテック研究所（現大阪R&Dセンター）」を竣工



1989

「筑波フジキン研究工場（現・万博記念つくば先端事業所）」を竣工

2025

本店社屋の新築
大阪工場東大阪プラント2の竣工
Changshu Fujikin Valve Manufacturing Incorporatedの稼働

2024

万博記念つくば先端事業所内に分析センターを稼働
オーブンラボ兼ユニット製造施設「ラボ・テクノロジーセンター」を開所



2020

経済産業省「ゼロエミ・チャレンジ企業」に選出される

2018

Fujikin Vietnam / FUJIKIN BAC NINH / Vina World Linkの3社が統合し、新会社「Fujikin Vietnam Co., Ltd.」を設立

2017

経済産業省「地域未来牽引企業」に選定

2015

筑波研究工場の増床に伴い事業所名を改め、「万博記念つくば先端事業所」とする

2014

Fujikin KoreaとTKSCTが合併、TK-FUJIKIN INCORPORATIONに社名変更
経済産業省「グローバルニッチトップ企業」に選定



2013

FUJIKIN BAC NINH INCORPORATED（現・The Branch of Fujikin Vietnam Co., Ltd - BAC NINH FACTORY）を設立
バクニン工場を竣工



2010

東京・秋葉原に「新本社」を新設
「Fujikin Singapore Pte. Ltd.」を設立

2009

韓国バルブ・継手メーカーTKSCT社を買収

2007

「Fujikin Korea Incorporated（現・TK-FUJIKIN CORPORATION）」を設立
「Fujikin Taiwan Incorporated」を設立

2006

「Fujikin of China Incorporated」を設立

2005

「東北サービス工場（現・東北工場）」を竣工



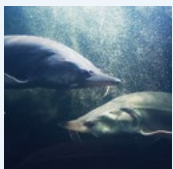
2002

アジアの製産拠点として、ベトナムハノイに「Fujikin Vietnam Co., Ltd.」を設立し、ベトナム工場を操業



1998

世界で初めて水槽でのチョウザメの完全養殖に成功



1992

筑波フジキン研究工場（現・万博記念つくば先端事業所）にて民間企業として日本で初めてチョウザメの人工ふ化に成功

1990

アメリカ・アイルランドの精密バルブメーカーCarten Controls Ltd.を買収



カーボンニュートラルに貢献し 持続可能な社会へ

Sustainable Society

フジキンは、サステナビリティへの取り組みとして
工場敷地内に太陽光発電設備を導入するなど、
カーボンニュートラルを推進。

「モノづくり」の技術や企業姿勢を通じて、
持続可能で豊かな社会のための活動を広げています。

使用電力を再生可能エネルギーに

万博記念 つくば先端事業所では、積極的に太陽光発電
を導入してきました。建屋屋根への設置やカーポート
ソーラーなど敷地面積を生かし取り組んでいます。また、
その他の国内工場の使用電力も再生可能エネルギー
由来に移行しています。



電気自動車・燃料電池自動車の導入

脱炭素化に取り組むため、電気自動車・EVトラックを導入
しています。電気自動車の充電には太陽光発電システムを
活用。また、水素で発電する燃料電池自動車も保有。全社をあ
げてカーボンニュートラルに取り組んでいます。



ゼロエミ・チャレンジ企業への選出

フジキンは、NEDO「超高压水素インフラ本格普及技術研究
開発事業」プロジェクトに参画。水素ステーションの整備費・
運営費低減に寄与する技術を開発し、経済産業省の「ゼロエミ・
チャレンジ企業」に選出されました。



会社概要

Company Profile



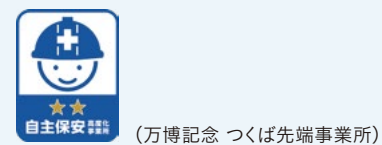
社 名	株式会社フジキン
創 業	1930(昭和5)年5月
設 立	1954(昭和29)年9月
資 本 金	1億円
連 結 売 上 高	2,142億円(2024年度見込)
グループ従業員数	6,734名(2025年3月31日現在)

認定・資格

Qualifications and Authorizations

- 経済産業大臣
高压ガス認定工場(大阪工場 柏原)

- 経済産業大臣
高压ガス自主保安高度化認定事業所



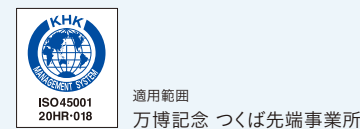
- 経済産業省コンプライアンス・
プログラム認定会社

- 一般財団法人日本海事協会(NK)
認定工場(大阪工場 柏原)

- ISO9001 認証工場



- ISO45001 認証工場



- ISO14001 認証工場



- ISO13485 認証工場



- ISO27001 認証工場



- 医療機器製造業登録証
登録製造所 万博記念 つくば先端事業所

- 第二種医療機器製造販売業許可証
登録製造所 万博記念 つくば先端事業所

- 動物用医療機器製造業登録証
登録製造所 万博記念 つくば先端事業所

- 第二種動物用医療機器製造販売業許可証
登録製造所 万博記念 つくば先端事業所

- 高度管理医療機器等販売・貸与業許可証
取得事業所
総本社、新本社、
万博記念 つくば先端事業所、
関西支店、九州熊本営業所、
フジキンソフト株式会社 本社、
秋葉原テクニカルセンタ、
フジキン うめきた ナレッジセンタ

- 欧州安全規格 CEマーキング対応



- ISO9001, I4001 認証工場
適用範囲 Carten Controls Ltd.



- ISO9001, I4001 認証工場



- ISO9001, I4001, 45001 認証工場
適用範囲 TK-FUJIKIN CORPORATION

- ISO27001 認証

